

第5学年 算数科学習指導略案

- 1 単元名 変わり方を調べて (1)
- 2 本時の目標 コンピュータを活用したシミュレートを通して、問題の答えを確かめることができる。
- 3 本時の展開 (3/3)

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
見通す	1 復習	個別	○2人が出会うまでの時間を求める問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> ・表と式から、変わり方に着目させる。 ・1200mをきちんと測ること、分速70mで歩くこと、2人が同時にスタートすることなどを取り上げ、本時の活動の意義を見いだせるようにする。 	ワークシート
	2 問題把握	一斉	○答え(8分後)を実際の場面において確かめることの困難さについて知る。		
	3 めあての確認	一斉	○めあてを確かめる。		
つなげる	プログラミングで問題の答えを確かめよう				
	4 見通し	一斉	○スプライトの動きに着目しながらプログラムが実行されている場面を見て、気付いたことを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・黄ねこ(スプライト1)が赤ねこ(スプライト2)に向かって進んでいる、ねこが出会ったらストップしている、かかった時間(分)を数えているなど、プログラミングにつながるような意見を全体で共有する。 	
ひろげる	5 自力思考	個別	○見通しで交流した要素(命令)とブロックを関連付けて、プログラミングを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「何ができていて、何ができていないか」を適宜確認させる。必要に応じて、変数ブロックや定義ブロックなどを提示する。 	
	6 集団解決	ペア ↓ 一斉	○つくったプログラムを交流する。		
	7 本時のまとめ	一斉	○本時で1番大切だと思ったことについて交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に取り組むことが難しくても、コンピュータを使えばできる場合があることを押さえる。 	
	8 練習問題	一斉	○2人が追いつくまでの時間を求める問題を解き、答えを確かめるプログラムをつくる。		
	9 振り返り	個別	○学習を振り返り、ワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことやできなかったことについては、その要因まで考えさせるようにする。 	

4 本時の評価 (評価観点) < 評価方法 >

速さや道のりにおける変化のきまりとコンピュータを用いて、問題の答えを確かめている。

(数量や図形についての技能) < プログラムのデータファイル・発言・行動観察 >